



平成25年8月5日

卓話 『人は食べた物でできている。
(病気になるしない食事内容)』

ナチュラルラボ株式会社 代表取締役
一般社団法人分子整合医学美容食育協会 東京中央支部支部長

田中 裕規 様

初めまして、ナチュラルラボ株式会社の田中です。私、小学生のころから料理が好きで、19歳の頃東京に出てレストランで修業しました。そのあとひょんなことからITの会社に誘われて2年ほど勤め、そのあと独立したんですが、あるとき娘にパパの仕事何なのって聞かれたんです。そのときやっていたのは広告販売とシステム開発で、広告販売は効果があればお客様に喜んでいただけるけれど、効果がない時は何だこれということになり、これは娘に胸を張って言える仕事ではないなという思いがあったんですね。そういう中で元々僕、体を作るのが好きでトレーニングしてたんですけど、どういう食事をすれば筋肉がつくか脂肪を落とせるかと考えるようになり、分子整合医学という栄養学を勉強しました。その知識をもとに娘の同級生のお母さんに食事の話をすると、お母さんたちが喜んでくれて娘もすごく喜んだので、これを仕事にしようと思い、今の会社を立ち上げました。

人間の体は食べたもので出来ています。根底にはいい食べ物を食べるという体になるという考えがあります。分子整合医学の考えでは人間の細胞は120歳まで生きられるように出来ています。歴代の日本の最高齢の方たち、皆さんすごくしっかりしていて、寝たきりでもなく自分で何でもするような方たちです。その健康法は腹いっぱい食べないこと、よく噛んで動くこと、贅沢をしないということです。

今、スーパーで商品を手にとってみると、ほとんど添加物が入っています。そして子どもたちの3人に1人がアレルギーです。僕が小学生の頃、

アレルギーの子って全然見たことなかったです。その原因、僕はこうじゃないかって思います。例えば母親が有毒物質を取り入れてしまうと、その母親は子どもを産むときに子どもに毒素を持た



せてしまうんです。つまり子どもは先天的に細胞に有害物質を持って生れてしまう。僕たちの時代、親は日頃有害物質にさらされる状況ではなかったの、僕たちはまだ健康な体で生まれていますが、僕たちがファーストフードとか体に悪いものを取り入れて大人になっているので、子供は最初から僕たち以上に毒素を持っているんですね。それを僕は子どもたちにすごく申し訳なく思っています。私の会社の理念の一つが「子どもが食事を選ぶまでは」です。子どもが自分で食事を選ぶようになるまでは親の責任だということです。

私のところで販売している雑穀米は、北海道大雪山系の雪解け水が100年以上かけて濾過された地下水で育ったお米です。北海道は開拓されてまだ120年ぐらいなので、本土と較べて土に栄養素、ミネラルがいっぱい含まれています。しっかりした昔の人が食べてきた穀物を食べて食物繊維を沢山摂っていただければ、腸が掃除されて血がきれいになり、脳にもきれいな血が行き渡ります。これを機に皆さん、ご自分も孫の世代も健康にさせていただければと思います。ありがとうございました。